

精密工学会賞 第4回（2008年度）

受賞者業績紹介

受賞者： 樋口 俊郎 氏

樋口俊郎氏は精密工学分野全般、特に圧電素子応用のマイクロアクチュエータ、磁気軸受、リニアモータ、静電応用技術などの機械電子制御技術分野や生体関係の微細加工において幾多の研究開発をなし、多くの成果を挙げている。なかでも衝撃力を応用した精密位置決め機構に関する分野、マイクロマニピュレーション技術の食品工業、細胞操作デバイスに対する応用などでは独創性の高い成果が認められている。

樋口氏は1977年に東京大学生産技術研究所講師に奉職、1991年同研究所教授就任、現在は東京大学大学院工学系研究科教授の職にある。大学における研究・教育活動の傍ら、1992年より（財）神奈川科学技術アカデミーのメカトロニクス関連プロジェクトのリーダーを務め、研究成果の産業界への応用技術に関する活動をしている。更に2002年からは大学発ベンチャーとして株式会社ナノコントロールを設立、圧電素子、精密位置決めデバイスの製造販売を行う会社の経営者としても活躍している。

これらの研究開発の成果に対し工作機械技術振興賞（論文賞）、精密工学会賞（現在の論文賞）、日本ロボット学会技術賞、日本MH協会第12回下地賞、IEEE MHS2007 Best Paper Award, IFToMM Award of Meritなど多くの賞を受賞、8件以上の海外特許取得などの実績もある。

以上のように、同氏の精密工学分野に対する工学的・工業的な貢献は極めて大である。

- 1972年 東京大学工学部精密機械工学科卒業
- 1977年 東京大学大学院工学系研究科博士課程終了
- 同年 同大学生産技術研究所講師
- 1991年 同大学工学部教授
- 1995年 同大学大学院工学系研究科 精密機械工学専攻 教授
精密工学会フェロー、工学博士